

# 鉄道ピクトリアル

2016年10月号 Vol.66 No.10 通巻No.922

<特集> 常磐線「国電区間」

■表 紙 首都圏103系営業運転最終日の上野駅 .....三ッ谷政久

上野 2006-3-17

## ■グラフ

エメラルドグリーンの記憶 (1~5ページ)

河原慶明・関根敏男・金子 聰・岩永伸一・井上英樹  
関 周一・戸塚光弘・三島達夫・杉崎健一・編集部

常磐線 思い出の国電区間 (6~8ページ)

藤井憲男・太田正行・佐藤利生  
三ッ谷政久・金子 聰・関 周一

\*

「常磐線上野・松戸間電車開通記念」絵葉書に添えて

.....所蔵・解説：白土貞夫 25

常磐線「国電区間」1950~60年代想い出の風景

.....伊藤 昭・伊藤威信 28

常磐線の103系電車 .....構成：芳田あきら 34

常磐線の貨物列車 .....構成：編集部 42

常磐快速線の列車運行 .....高瀬智嗣・日向 旭 44

常磐線複々線完成記念きっぷ .....所蔵・解説：長谷川優一 47

\*

Pictorial Color Gallery 上毛“かぼちゃ”電車最後の楽園 加藤 和毅 89

「近畿日本鉄道南大阪線・吉野線観光特急車16200系「青の交響曲(シンフォニー)」/大阪市交通局御堂筋線用30000系増備車/東京地下鉄南北線9000系リニューアル車ほか」 92~94

106~107

各地の話題から .....白川 淳 95

トピック・フォト(各地・関東・中部・関西) 98

能勢電鉄 最近の動き —1500系引退— 竹内 宗隆 108

西鉄だより 8000形8021編成引退 平田 利光 111

## ■本文

今月の話題：常磐線「国電区間」 .....編集部 9

エメラルドグリーンのラビリンス 常磐線国電区間歴史メモ

.....岩成 政和 10

常磐緩行線 国鉄～JR所属通勤形車両の変遷 中村 剛 48

常磐線国電区間の線路配線 .....祖田 圭介 61

常磐線の旧形国電回顧 .....長谷川 明 69

常磐線～成田線直通列車をめぐって .....根本 幸男 77

フィリピンで活躍する203系 .....斎藤 幹雄 112

インドネシアで活躍する203系 .....井上 幸彦 116

\*

鉄道の話題 .....編集部 24

平成28年度関東大手私鉄の設備投資計画 .....編集部 84

快速「伊豆クレイル」一番列車に乗る .....静 拓志 118

絵葉書のなかの国鉄ローカル線(20)成田線 .....白土 貞夫 124

書評(620)『北海道の私鉄車両』 .....三木 理史 126

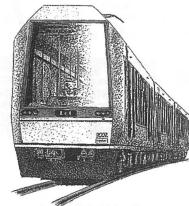
7月のメモ帳 .....127

読者短信・情報ファイル .....128

後部車から .....132

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru



カット：山本茂樹

## 今月の話題

「国電」という略称が使われなくなつて久しいが、「国電区間」はかつて国鉄時代に東京、大阪の通勤輸送を担う電車区間として、中長距離の列車区間と区分するために用いられたものであり、73系や101・103系などの通勤形電車が専ら運用され、都市圏内にあって都心部への通勤路線として機能していた区間を称していた。東京では山手線、京浜東北線、中央線、総武線、そして常磐線とその派生区間が該当するが、JRが発足して「国電」に代わる愛称が検討されたものの、結局それに代わる称号は馴染まず、曖昧になったままで今日に至っている。したがって本特集で取り上げた常磐線「国電区間」の範疇は、旧国鉄時代に倣って、上野から取手に至る往年の通勤電車区間を中心としたものと理解いただきたい。

さて、常磐線の「国電区間」は、東京圏において最も後発の成立であり、1936(昭和11)年上野～松戸間電化によって国電運転が開始され、戦後取手まで電化でその区間が延伸された。以来、千葉県北西部、茨城県南部から都心への通勤輸送に重要な役割を担うが、歴史的事情を含めて他の国電区間にはないさまざまな特徴を持っている。第1は取手以北の列車線が交流電化になったことによる中長距離列車との棲み分け、第2は完成時に大きな話題となった地下鉄との相互直通と複々線化の事情。当初は需要予測が大きく異なり、輸送が混乱するとともに、営業制度上でも特異な点がみられた。その他にも成田線との直通運転の今昔をはじめ、車両はもとより運転、施設の視点からも「国電区間」として見所が多い。今日では上野東京ライン開通によって国電の後継とも言えるE231系電車が取手から品川まで直通するようになり、利便性が飛躍的に高まり、さらに進化を続けている。

TETSUDŌTOSHO KANKOKAI  
Mehrlicht Ochanomizu Bldg., Kanda  
Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan